

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200140		
法人名	株式会社 雄清		
事業所名(ユニット名)	グループホームなかはや		
所在地	和歌山県田辺市中芳養917-7		
自己評価作成日	令和5年9月26日	評価結果市町村受理日	令和5年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和5年10月26日		

【事業所が時に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が地域の中で、その人らしい生活が送れるよう支援していくという基本姿勢は11年経った今も引き続いています。。コロナ感染対策が緩和された事により、近所の神社参拝やお弁当を持っての花見に出かける事ができました。玄関先での外気浴やお茶会も再開していく予定で外の空気を感じて頂き、毎年帰って来るツバメの成長を喜び、田畑や山並みを眺め、季節の移り変わりを楽しみ、感動する機会を持てるように支援しています。屋内ではラジオ体操やストレッチ体操で体を動かす機会を作り、職員と一緒に壁画やおやつ作りをし、歌謡曲や童謡のカラオケを歌ったり、お笑い番組を見て、声を出して笑って過ごすことも楽しみとなっています。お誕生日会や季節のイベント等を積極的に実施しており、手作りケーキやイベント食を振る舞い、楽しい時間を過ごしています。利用者が高齢、重度化していく事で急変時の対応をしっかりと勉強する為に毎年欠かさず、救命講習を受け心臓マッサージ等、素早く対応でき、専門職としての責任を再認識する機会となっています。地道な積み重ねを継続する事で利用者やご家族、地域の方々からも評価して頂ける事業所を目標として日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は中山間地にあり、田畑や小高い山々の景色を眺められる静かな生活環境に恵まれている。コロナ感染対策が緩和されたことで、近所や地域との交流も徐々にできるようになり、活気を取り戻しつつある。敷地内でお茶会を催したり、花見に出掛けることも実現できている。お正月には、近所の神社に参拝しおみくじを引いたり、お鍋やおやつ作り、回転寿司を注文するなど食事の面でも楽しむ工夫がされている。利用者一人ひとりに担当者を決め、その人らしい生活が実現できるよう認知症ケア専門士資格者から助言を得て実践している。往診医や訪問看護師、終末期ケア専門士資格者もいることで医療体制も充実している。管理者と職員間で意見を出し合い、業務時間体制の見直しを試験的に行い、利用者への負担もなく実践できている。また、ネイルやマッサージ、アロマテラピーを導入したり、常に前向きな構想を考えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内の見える所に理念を提示、確認できるようにしており、時折、見返して初心を忘れないようにしている。管理者と職員は利用者や家族の思いを聞き、支援につなげている。	「利用者の思いや願いを掴み、個人の尊厳を尊重し、その人らしい生活が送れるよう支援します。」という事業所の理念を掲げ、職員と共有し実践につなげるよう意識付けしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防対策が緩和され、地域の夏祭りに参加予定だったが施設内での感染者が出たため、参加できなかった。交流がある幼稚園、小、中学校、老人会の人達に施設の様子を伝える「なかはや便り」を配布している。	コロナウィルスやインフルエンザの感染対策のため、以前のような地域との交流は出来ていないが、地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域住民との交流を絶やさないよう「なかはやだより」を年4回ほど配布している。地区の小学校から敬老の日に葉書を送ってもらったりと交流を続けている。11月には馬掛け祭りがあり、事業所前に来訪を予定している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の方々にも参加してもらったこともあるがコロナ対策で長らく実施されていない。又、事業所は地域密着型の施設であり、相談等あれば対応できる事はあると思う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策が緩和され、4月に委員の人達や市担当者を迎え、施設見学を行い意見交換もできた。会議が行えなかったときは文書にて取り組み状況や行事等を報告している。	今年度は4月・6月に運営推進会議を開催し、町内会長や区長、行政からも参加してもらった。その後は感染者が出たため施設の行事報告など文書にして配布し、行政からも直接意見をもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議が再開され、参加していただいている。コロナ禍の時でも月に数回、窓口まで出向いており、市担当者と連絡を取り、助言を頂いている。	市の担当者には直接出向いて報告し、相談している。感染者が出た場合などは、電話連絡や質問表をファックスし助言を受け、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回施設内研修を行い、報告書を作成して振り返ることができるようにしている。、毎月の会議でも日常のケアについて振り返り、身体拘束にならないよう意識し、改善している。やむを得ない場合は家族に同意をもらい、必要なくなれば、すぐに解除している。玄関はやむを得ない場合と夜間以外は基本、施錠していない。	事業所内で定期的研修会を開催したり、毎月の会議でも職員の報告書から、日常のケア内容やスピーチロックに該当しないかを確認している。やむを得ない場合、家族に同意を得て実施したケースはあったが、今年度は実施していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を全職員が受けている。毎月の会議で身体拘束以外に言葉の暴力、過剰服薬についても振り返っている。特に言葉の暴力は時折あるように思うが意見交換しながら、正しく理解し虐待防止について確認している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について勉強会を行い、理解に努めているが、現在は対象者となる利用者がいないため、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等際は文章を準備した上で相談、説明し、十分納得されるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置している。コロナ対策が緩和され、少しずつ家族の面会も受け入れ、直接お話を伺う機会が増えている。また、外部評価の際のアンケート結果を活用し、改善点等を話し合い、運営に反映できるようにしている。	利用者は重度化し、直接意見を伺うことが困難になっている。コロナ対策が緩和され、家族との面会が出来るようになり、直接意見を伺うようにしている。遠方の家族には文書で報告し、メールなどで意見をもらっている。また、外部評価でのアンケート結果を参考にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1～2回行っている個人面談や月1回の会議の中で全職員の意見、要望、提案を聞き、日常業務の中でも意見交換をしている。問題が起きた場合は緊急会議や必要に応じて文章で意見を聞き、運営に反映するように努めている。	代表者や管理者は、利用者への配慮を一番に考え、職員からの意見や要望、提案を聞き、職員の業務整理を行った。試験的に2ヶ月間実施の予定だったが、日中の勤務態勢を工夫した結果、現在も継続されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を取り入れており、個々の努力や成果についての把握に努め、職員が改善しやすいように改善点を伝えている。給与、労働時間、職場環境には様々な制度を取り入れ、職員の状況に合わせた働き方に対応しており、できる限り他に劣らないように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は控えているがスキルアップや資格取得のために必要な研修はオンライン研修を取り入れ受講しており、事務所には研修案内を掲示している。施設内では、個々に課題を与え、調べた内容をまとめて全職員から意見をもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染予防が緩和され、外部研修に参加した際に同業者の取り組み状況等を聞く事ができ、良い所は取り入れて行えるようにしている。又、近隣の施設内から連携依頼があり体制を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現場職員が関わる機会は少ないが、ケアマネがサービス利用開始時に困っていることや不安に思っていることを聞き、現場職員はサービス計画書等で情報を得た上で状況に合った必要な支援等を一緒に考え、本人に寄り添いながら、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議をケアマネとリーダーが数回に分けてカンファレンスを行う中で信頼関係の構築に努めている。又、荷物の搬入時に職員も関われるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況等を聞き取り、事業所として出来る必要な支援と他の利用可能な社会資源等を提案、説明を行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援するだけでなく、できる事や興味のある事は一緒に行い、出来なくても声をかけて一緒に行えるように努めている。コミュニケーションも大切にしており、個々に関わりながら信頼関係を築いている。又、共に過ごす一員として感謝の言葉をかけ、思いを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルス感染予防対策が緩和され、訪問時に日頃の様子を伝えることができるようになった。月1回のお手紙に写真を添え様子を伝えたり、テレビ電話で顔を見ながら話してもらっている。又、年賀状や暑中見舞いで関係性を維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策が緩和され、県外の家族とも面会できるようになり、ひ孫を会わせたいと来訪され、居室で過ごして頂いた。以前程ではないが、ドライブに出かけることも続けており、気分転換等を行っている。	コロナに感染した利用者等がいない場合は、利用者の居室や玄関の椅子で家族との面会も可能となっている。春には花見をするため、個別に散歩に出掛け、外気に触れるよう取り組んでいる。今後は、外食やドライブに出掛ける計画をしている。訪問理美容で毛染めやヘアカットをしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格、個性を把握し、なじみのある利用者同士を近くにするなど、さりげない場所作りや良好な関係性を維持できるように職員が間に入ることがある。レクリエーションでは全員が参加できるものを行い、利用者同士の信頼関係が築かれるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように退所後、移り住んだ先の関係者に対して、本人の状況・習慣・注意が必要な点等について情報提供し、ご家族とも継続して連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定、意思表示のできる利用者には、日々の関わりの中で思いを知ろうとしている。小さなことだが飲み物やおやつを選んで頂く事もある。又、決定の困難な利用者の場合は表情や行動で思いをくみ取り、良いケアができるように都度話し合い、会議に挙げて本人の意向の把握に努めている。	重度となった利用者でも表情や行動から思いを汲み取り、以前の暮らしぶりや好みなど職員間で情報共有して、より良いケアが出来るよう取り組んでいる。認知症ケア専門士の資格者もあり、利用者のケアについて、細部に渡って意見交換したり、会議で図り検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴や暮らし方については、アセスメントや先輩職員、家族から今までの経過等を聞いている。又、日常の会話の中でも今までの生活環境の情報を得て、本人の全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方に大差はないが、やりたい事、出来そうな事は日々の申し送りや会議等で意見交換し、ケア方法の統一を図りながら実践している。又、変わったことや急変時には記録や写真に収め、申し送りを確実にし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議で個々の現状についてモニタリングを実施、意見交換した中で良い案は試行錯誤しながら実行している。コロナ対策は緩和されたが、家族には電話で本人の状態を報告して意見を頂き、医療関係者には受診、往診時等に意見聴取し、無理のない現状に即した介護計画を作成し、支援できるよう努めている。	月1回の会議で職員から出された意見や情報を聞き取りしたり、日々の利用者の過ごし方や家族からの意見と医師や訪問看護師からの意見も受けている。利用者一人ひとりの個別化に配慮し、現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアについては記録し、気になる事は申し送りに残し、口頭でも伝える事で情報を共有している。月1回の会議でも介護計画の見直しや結果について話し合いをし、反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて通院の送迎、付き添いを対応し、家族と共に医療機関との密な連携を図っている。又、遠方の家族が多い中で生活用品等、必要な物品がある場合は了承を得て、事業所で買い物代行等を個々に合わせた対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策が緩和され、地域資源も再開し、夏祭りに声をかけてもらったが施設内でコロナ感染があったため、不参加になった。以前のように地域との協働ができるように努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の定期的な往診が主だが、今までのかかりつけ医や専門病院への受診や家族、本人の希望に沿い、必要に応じた医療も受けられるよう支援している。	往診医と連携し、専門的な治療が必要な場合は医療機関への送迎をし状態把握に努めている。また、重度化された利用者には、緊急時の24時間対応の可能な訪問看護事業所との連携もして随時の相談もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携に基づき、毎週定期的に来てもらい、健康管理や医療面での気になる事の相談、助言をもらい、必要に応じた処置も行ってもらっている。何かあればいつでも相談を受けてくれる。又、事業所内の看護師にも相談し、病状悪化の早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携室への情報提供を行い、本人に面会して状態の把握に努めている。退院時にはカンファレンスを依頼し、退院後の注意事項、入院中の様子を教えて頂き、職員間で情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化対応・終末期ケア対応指針により説明を行っている。又、必要となった場合は主治医・訪問看護師との連携も取れており、家族にも相談し対応している。職員は看取りに関する研修に参加、終末期ケア専門士の資格を取得している職員もいる。今年一名の看取りを行い、家族・医療・看護・介護でのチームケアが出来たと思う。	重度化対応や看取り同意書、医療連携体制同意書を作成し、家族に説明し、理解を得ている。急変時の意向確認書を年に1回家族から提出していただいている。終末期ケア専門士の資格者もあり、施設での看取りを希望されている家族にも再度確認して救急要請するか判断を仰ぐようにしている。看取り後のアンケートを家族から受け、振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命救急士による講習会を全職員が受け、心臓蘇生とAEDの使用方法を実践して学んでいる。同時に救急車の呼び方、誤嚥時等の対応方法も講習会していただいており、技能維持に努めている。又、緊急時の連絡体制を事務所に提示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署立会いで避難訓練を実施しており、消火器の使い方等の講習を受け、対応できるよう努めている。施設内でも災害対策訓練を行っており、備蓄場所等、全職員が把握している。又、BCP作成も完成間近。	年1回は、消防署の立ち会いで避難訓練を実施し、また、事業所でも独自の避難訓練を実施している。災害対策担当者を主にして、感染対策業務マニュアルとBCPを作成した。災害対策業務マニュアルも徐々に完成に向けて取り組んでいる。	昨年からの課題となっている防災対策業務マニュアルも今年度の完成に向けて取り組んでいる。防災対策担当者で職員一丸となってより良いBCPを完成されることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全員に同じ対応をするのではなく、一人一人に合った声かけや意思疎通が上手く出来ない利用者に対しても誇りやプライバシーを損ねないような声かけに努めている。又、勉強会等でプライバシーや言葉使い、声のかけ方、トーンにもついて話し合いを行い、気を付けるようにしている。	ですます調の言葉かけを基本としているが、利用者に応じてニュアンスや声のトーンで親しみの持てるように配慮している。利用者との信頼関係を築くため、認知症ケア専門士の資格者の指導のもと、会議の中で勉強会を開き、レポートを回覧している。職員が対応に苦慮している場合は、その都度アドバイスを受け、話し合うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない場面や会話の中で、本人の思いや要望を引き出せるような問いかけ、選びやすい声かけをし、できる限り自ら選択できるように働きかけている。意思表示が難しい利用者にも押しつけにならないように考えながら、声かけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが決、まっている中である程度は本人の気分に沿って、自由に過ごしてもらえよう、声かけや環境を整えている。その日の体調や状態、状況に応じて、臨機応変に対応しながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣替えを行い、本人に服を選んで頂く事もある。訪問カットでは好みの髪型を聞いている。又、自分で出来る人は髪を整えたり、髭を剃ってもらい、毎日、爪を確認し伸びていれば整え、清潔な身だしなみができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事は外注を利用している。イベントや季節によってお鍋をしたり、おやつにおまんじゅうやホットケーキ等を作るところから参加して頂き、楽しんでもらえるよう工夫している。	冷凍食品を利用しているが、行事や季節によってメニューを変えている。また、他の配食業者の食事も試食し、利用者の好みに合う食事について検討している。手作りのおやつも提供したり、11月には回転寿司を注文したり、12月には鍋料理を予定している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を提供しており、食べるペースや食事形態を一人一人に合わせている。食事、水分の摂取量を記録し、水分量が少ない人には、追加で出したり、水分の多いおやつを提供している。又、年二回、採血を実施し栄養状態について医師と連携し支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、マウスウォッシュを混ぜた水でうがいをし、口臭のケアを行っている。義歯には専用ブラシを使い、週三回消毒、口腔用品も週一回消毒して清潔を保持している。職員は月一回、歯科衛生士による口腔ケア指導を受け、利用者は月一回、先生による口腔チェックを受け、必要に応じて治療できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやパットを使用している利用者が殆どだが、排泄リズムやパターン等を確認しながらトイレでの排泄を促している。オムツの方は定期的にパット交換を行い、場合によってはトイレに座り、排泄を促すこともある。	重度化した利用者は、オムツ外しに取り組むことは出来なくなっているが、利用者一人ひとりに応じた排泄パターンを確認し、トイレでの排泄を実施している。排便は、子どもや高齢者の腸に優しいモビコール配合内用剤を主に服用してもらい、洗腸は極力せず自然排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらい、乳製品の摂取を勧めており、日常的に体を動かす事も大切にしている。排便記録を確認し、出にくい時は腹部マッサージ等を行う事で腸を刺激し、便秘予防に努めている。又、服薬を上手に使用し、個々に合った排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	小規模との兼ね合いもあり、基本的な曜日、時間帯は決まっているが本人の希望や体調によって順番をずらす事はある。個々にあった入浴方法で入浴剤を使ったり、柚子風呂を用意して季節を感じてもらえるように支援している。	週2回は入浴できるよう、時間や順番は利用者の状態によって対応している。季節によって柚子風呂など香りも楽しめるよう配慮している。重度化した利用者には、スライド式のシャワー椅子を使い湯船に浸かれるようにしている。アロマテラピーも取り入れ、ハンドマッサージやネイルなどで視覚効果にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、起きている事がしんどい方は居室で休んでもらい、レクリエーションや体操等で日中の覚醒を無理のない範囲で促し、楽しく穏やかに過ごして夜間の良眠につなげられるように努めている。又、ベッド周りは一人一人違い、休息や安眠ができるように整え、電気スタンドや空調管理も行いながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも確認できるようにファイリングしており、飲み忘れや誤飲がないように職員同士で確認し、変更時は申し送りして情報共有している。頓服についても相談し、状態や様子を記録に残し、申し送っている。緩下剤は排便の状態によって調整し、薬の相談はかかりつけ薬局でしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をハンガーがら外したり、畳んでもらったり、壁画作成、おやつ作り等、特異な事をお手伝いしてもらっている。終わった後には感謝の言葉を伝えている。又、歌が好きな人やテレビが好きな人もおり、好きな事に時間が取れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初めての試みで初詣に出かけ、お賽銭やくじ引きをしたり、お花見ではお弁当を持ち、桜並木を散策し、季節を感じてもらった。又、玄関先での外気浴やお茶会も再開し外の空気に触れる機会を作っていく予定だ。	気分転換に屋外を散歩している。近所の八幡神社まで参拝に出掛けたり、桜の名所まで近所の人と一緒に花見に出掛けることが出来ている。庭先でのお茶会も実施している。少しずつ外出支援も再開できるようになりつつある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している利用者は一人いるが使うことはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを自分で書ける方は書いてもらい、書けなくても職員が手を添えて名前を書いたり、スタンプを一緒に押したりして手作り感を出している。又、タブレットで家族とのオンライン面会の支援も定期的に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所は毎日し掃除や消毒を清潔にしている。利用者の動線確保や過ごしやすいように適宜、リビングの家具等の配置を見直ししている。又、季節の壁画を飾り、明るい雰囲気になるように工夫している。空調管理にも注意しており、適宜、換気をするようにしている。	共用部分の壁は白を基調とした明るい空間となっている。利用者の状態に応じてフロア内のテーブルや椅子の配置などレイアウトを変更して居心地の良い空間作りがされている。玄関周りや廊下にも季節感を採り入れた工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを三つに分けており、気の合う利用者同士で座る位置など好みに座ってもらっている。ソファを置いてあるので思い思いにくつろいでもらっている。又、離れた場所にもソファを置いてあり、一人静かに過ごせるような工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔からの使い慣れた物を持ち込み、使っている人もおり、家族との写真や家族からの贈り物を飾り、居心地良く過ごせるように工夫をしている。又、整理整頓に心掛けており、危険がないよう配置に気をつけ、過ごしやすい空間、清潔を心がけている。	利用者の居室の壁は、白を基調とし窓も大きく、採光も充分にある。馴染みの家具を配置し、家族から贈られた花や写真を飾り、居心地の良い居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカや居室等の動線には移動の妨げになるような物は置かず、自由に移動して頂けるようにしている。場所ごとに暖簾や貼り紙を表示し、立ち入ってはいけない場所には立入禁止の貼り紙をしている。居室の戸には職員手作りのネームプレートや写真付きの貼り紙をすることにより、出来る事やわかる事を伸ばせるように支援、工夫もしている。		